

棧敷の古い形

折口信夫

青空文庫

此字は、室町の頃から見え出したと思ふが、語がずつと大昔からあつたことは、記紀の註釈書の全部が、挙つて可決した処である。言ふまでもなく、八俣遠呂知対治の条に、記・紀二つながら、音仮名で、さずきと記してゐる。それより後の部分にも、神功の継子の二皇子、菟餓野ツガヌに祈狩ウケヒガリして、各仮廢サズキにゐると、赤猪が仮廢に登つて、麿坂カゴサカ王を咋ひ殺した（神功紀）ことがある。又百濟池津媛、石河楯とかたらひして、天子の逆鱗に触れて、二人ともに両手・両脚を、木に張りつけ、仮廢の上に置スゑて、来目部クメベの手で、焚き殺された（雄略紀）よしが見える。

此尠くとも奈良以前に、磔ハタモ殺の極刑のあつたことを示した伝へ

は、罪人を神の前に火殺する、一種の神事と仮廬との關係を示すと共に、形は、足代の上に、屋根なしの箱ハコ槽フネを置いた様だつたことを思はせる。二皇子の場合も、うけひの神事と、猟りの矢倉とを兼ねた物らしい。山・塚・旗・棒などの外に、今一種神招ヲぎの場ニハとして、かう言ふ台に似た物を作つたことがあつたのだらう。又、菟道ウチ・鹿路シ、ヂに目柴マフシ立て、射部配スゑたゞけでは適カナはぬ猛獸の場合に構へたらしいこと、今尚、此風の矢倉構へる獵師があるのである。記に、門毎に仮廬を結ぶと見え、紀に仮廬八間ヤマなるを作るとあるのも、入り口の上に構へた物もあり、柱間の広い物もあつたことを示すのである。

祭り其他の物見に作り構へた棧敷は、古くはやはり、矢倉の一種

であつたと思はれる。棧敷と言ふと、字義と實際とが相俟つて、長く造りかけた物らしく思はせてゐるが、古い形は、今の人の聯想とは、交渉を没した姿で、地上からやゝ高くそゞり立つてゐたのであらう。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 3」中央公論社

1995（平成7）年4月10日初版発行

底本の親本：『『古代研究』第一部 民俗学篇第二』大岡山書店

1930（昭和5）年6月20日

初出：「土俗と伝説 第一巻第二号」

1918（大正7）年9月

※底本の題名の下に書かれている「大正七年九月「土俗と伝説」第一巻第二号」はファイル末の「初出」欄に移しました。

※底本では「訓点送り仮名」と注記されている文字は本文中に小

書き右寄せになっています。

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2007年4月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

棧敷の古い形

折口信夫

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>